



新型コロナウイルス感染症の院内研修会を開催しました

院内研修会を受けて、今まではウイルスを院内に持ち込まない事に重点を置いていましたが、院内にウイルスが入ってくる事を想定した上での対策をしていくことが重要だと認識しました。

当病院の患者様は比較的高齢者の方が多く、重症化のリスクが高いため、感染を早期に発見し、最小限に止める事がとても重要になってくると思います。

そのための環境調整や物品の準備、感染者への対応方法を職員全員が把握しておかなければならないと思います。

現在、広島県の感染者は減少しており、県の感染防止に向けたステージも「ステージ1」に引き下げとなりましたが、今後も気を緩めることなく三密の回避、正しいマスクの着用、環境整備、手指衛生の徹底を行って、地域の皆様が安心して受診できる病院となるよう努力してまいります。

看護部看護師 髙尾 加奈恵



言葉 医療の

「誤嚥」

「誤嚥(ごえん)」と読みます。医療の分野の言葉にしか普通は使わない漢字です。

口+燕で『嚥』と書く漢字は、燕(つばめ)のヒナが親鳥が運んできた餌をごくつと飲み込む様子を表しているそうです。

『誤嚥』= × 飲食物ではない物を誤って飲み込んでしまう

○ 飲食物が食道ではなく気管に入ってしまう

飲み込む力が弱かったり、飲み込む神経の働きが悪かったりすると、飲食物が誤って食道ではなく気管に入ってしまうことを「誤嚥」といいます。

飲食物や唾液が誤って気管と通り、肺に入ってしまう事で起る肺炎を**誤嚥性肺炎**といいます。



お彼岸
お彼岸は春と秋、年に二回あり、春のお彼岸は「春分の日」を中日とした七日間を指し、今年3月17日が彼岸の入りとなります。

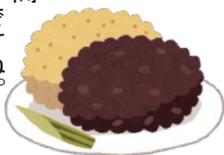
「彼岸」は、サンスクリット語の「パーラーミータ」に由来し、日本語では「波羅蜜多」となりますが、パーラーは「向こう岸」を、ミーターは、「渡る」を意味し、煩惱や迷いのある世界から悟りの開けた世界へ至るために修行の事を指します。

つまりお彼岸とは六つの仏教修行日六波羅蜜多を実行する期間の事なのです。もと「お彼岸」という風習は古代の中国で行われるようになりました。古代中国では太陽が沈む真西の方向に極楽浄土があると信じられ、太陽が真東から昇り真西へ沈む春分・秋分の方角が浄土のある方角だとしたのです。春分の日、此岸(この世)と彼岸(あの世)がもつとも通じやすい日と考えられ、死者を偲ぶ日、来世を偲ぶ日として捉えられるようになりました。

現在、彼岸にお墓参りを行うのはこのように、この世とあの世がもつとも通じやすい日だからなのです。

ところで、お彼岸には「ぼたもち」や「おはぎ」をお供えしますが、両方とも餅米とアanko、同じ素材で作られた同じ食物であるのに、呼び名が違うのは、季節の花に准えているからです。つまり、春の牡丹の季節にお供えするのが「ぼたもち」で、秋の萩の季節にお供えするのが「おはぎ」となります。また、あんこに小豆を使用するのは、小豆の赤色には古くから悪いものを追いはらう効果があると信じられたためです。

今年のお彼岸は「ぼたもち」をお供えし、御先祖様に感謝する七日間を過ごしてみるのも良いですね。



診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

担当医

月曜日	午前：青山	午後：内科(交代制)	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：宮里	午後：大村	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：大村	午後：卜部・森本 (腎臓内科)	土曜日	午後：井料(脳神経内科)	
				午前：内科(交代制)	

季節の風景



梅満開